

盲導犬のラブラドル・レトリバーは学習能力が高く、抜群の集中力・理解力の持ち主とされています。フレンドリーで従順な犬が多いですが、少し頑固な傾向も。しかし、この頑固さがあるからこそ、ラブラドル・レトリバーは自分でしっかりと判断し、人のために行動することができるのです。

紅葉台



新聞

第153号

2024年
10月26日

発行人：関谷 孝

お利口なワンちゃんに会いに行く

(文 辻井恵美子・写真 細井美智子)



お利口で優しくお仕事をきっちり出来る犬。盲導犬です。性格的にも人間好きで見た目も優しそうなラブラドルレトリバーやゴールデンレトリバーが盲導犬に最適な犬なのだそうです。たしかに。強面のシェパード犬がレストランに入ってきたら、一瞬引きますよね。そんな犬の特性

を生かして、さらに訓練をして立派な盲導犬となり目の見えない人、見えにくい人と一緒に生活をします。盲導犬だけではなく目のご不自由な人も一緒に訓練を受けます。一ヶ月間も。そんな盲導犬の誕生から引退までのトータルケアをする施設富士ハーネス(静岡県)に見学に行ってきました。盲導犬の話に戻りますね。盲導犬の役割は目の見えない人見えにくい人が行きたい場所へ、行きたい時にいくことができるように安全で快適な歩行を提供しています。

1 曲がり角を教えます。

2 障害物があると身体を張って教えてくれます。障害物と盲導犬ユーザーさんのあいだに自分の身体を入り込ませるのです。

3 段差を教えます。

でもでも。盲導犬といえども道案内は出来ません。ナビではな

いのですから。信号機の色も読み取ることが出来ません。もし信号機のある交差点に盲導犬ユーザーがいたら「赤ですよ」とか「青になりましたよ」とそっと教えてあげてください。

おうちに帰り着くと盲導犬もお仕事終了。今度は盲導犬ユーザーさんが盲導犬の面倒をみます。排泄物の処理をきちんとするのです。盲導犬は「オシッコ」と言われるとします。何時間ごとにするようにしつけられています。ユーザーさんも排泄物の処理を富士ハーネスでの訓練期間中に覚えます。富士ハーネスには出産したばかりの子犬もいました。もちろん訓練中の犬もいます。そして、



引退した犬も暮らしていました。盲導犬のお墓というか、チャネルホーム(納骨堂)もありました。家庭犬もそうですがどの犬もそれぞれに特性があり向き不向きもあります。なので、盲導犬には不向きな犬もいるそうです。どういう犬が不向きだと説明はなかったのですがきっと落ち着きのない犬だとか興味の対象にすぐさま反応してしまう犬だとかだと思われれます。そういう犬はキャリアチェンジをして盲導犬ではなく家庭犬として引きとられるそうです。キャリアチェンジをした犬が欲しかったなあ。と思いました。うちの家庭犬は小さな犬ですがとんでもなくうるさくていまだお手も出来ない犬です。お手というと伏せをします。盲導犬育成費用は驚きの90%が寄付によって支えられているそうです。皆様の支援で盲導犬を必要としている人々へ盲導犬がいき渡る世の中はすばらしい世界だと思います。

粕谷和夫の観察日記



日本最大級の500万本の曼殊沙華(ヒガンバナ)群生地として有名な埼玉県日高市高麗の「巾着田」に行ってきました。(9月18日)。清流『高麗川』のせせらぎに抱かれて雑木林の中に咲き誇る深紅のヒガンバナに圧倒されるはずでしたが、この日のヒガンバナは未だ2分咲きにもなっていない開花でした。通常年であれば、今頃は満開になる時期ですが、9月になっても猛暑続きのため、ヒガンバナの本隊は土中で気温が下がるのを待っているのでしょうか。



秋は怖いスズメバチの活動が活発になります。この写真は9月11日、八王子の長池公園の雑木林で樹洞に営巣するスズメバチの仲間を撮ったものです。図鑑で調べるとモンスズメバチでした。写真の下を見てください。2匹が入り口で尻を巣の中に向けて羽を震わせ扇風機のような行動をしていました。八子の猛暑克服作戦に感心しました。

ヤブランは雑木林の下で花を開いています。ヤブランは花が終わると宝石のような黒い種子が剥き出しになって目立ちます。冬になるとこの黒い実を求めてヒレンジャクという姿が美しく、バードウォッチャーに人気が高い鳥がやっできます。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。